

蔵王山安善寺

『一華開五葉』

泰忍 弘



〔板橋興宗禅師揮毫の暖簾〕

お彼岸も近づき待ちに待った春の足音が聞こえてまいりました。そんな中、雪が解けてくると昨年十二月の大雪で折れてしまった境内の木々が

姿を現し、片づけを考えると深く嘆息いたします。様々な木々の枝が折れましたが特に落胆したのはちょうど一年前季刊誌九十七号でもご紹介し

た、十六年前に植えた「しだれ桜」の枝が折れたことです。折れたのは十五センチほどの太い枝でした。毎年木の成長と開花を楽しみにしていたので大きな枝が折れたことはほんに残念でした。

禅語に『一華開五葉(いっけごようをひらく)』という言葉があります。この言葉は禅宗の初祖である達磨大師の言葉とされ、禅学大辞典によると「古来、達磨の予言として知られ、達磨から五代の祖師を経て禅宗の教えが花開くとも、あるいは禅宗が五家として分かれて、その花を開かせるであろうと予言したとも解されている。」とあります。実際に禅宗は達磨大師から五代後の六祖慧能の時代に慧能の説く南宗禅は大きく発展しました。そして慧能には優秀な弟子が数多く、その弟子の系統からいわゆる五家と呼ばれ

る「曹洞宗」「雲門宗」「法眼宗」「臨濟宗」「沩仰宗」が生まれました。「五葉」については、これ以外にも「五智」とする解釈もあります。

五智とは、心を開いた純粋な五つの心智のことです。

具体的には

一、法界体性智(身の回りのすべては仏の現れと知る心)

二、大円鏡智(生まれたままの無垢な心)

三、平等性智(すべてのものが平等であることを知る心)

四、妙觀察智(平等の中に個性があると知る心)

五、成所作智(思いやりを大切にする心)

のことです。

先日長男のバスケットボールの試合を観戦しに行つたときに『一華五葉』と書かれた横断幕を掲げたチームがありました。一輪の花が美しい五弁の花びらを開き、やがて立

◆編集・発行人◆
近藤真弘
〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811
◆スタッフ◆
小林国二・高橋 潔・高橋利春
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子
近藤久美子
印刷・株式会社印刷



ホームページ



Instagram

ご家族の皆さままでご覧ください



みなさんの胸にも心の花が咲きますように。

派な果実をみのらせる。五智を心に置いた一人一人の頑張りはずっと実になり、それがさらに広がっていくという願いがこもっている良い言葉だなと改めて感じました。

これからは春になり様々な花が咲く季節です。冒頭の桜の木ですが、雪で折れてぶら下がっていた枝を伐採し、さらに細かく切つて玄関先においておくと、何人かの方が持つて行つてくださいました。お寺でも床の間や居間に活けて花が咲くのを楽しみにしています。持ち帰ってくださった皆さんの桜が咲くことを願い、すべての皆さんが心智を胸に、心の花を咲かせることを願います。

【特集①】

檀信徒総代就任のご挨拶



屋代 健

安善寺の檀信徒総代の太刀川善之助様が昨年10月にご逝去されました。長年に渡り、安善寺に多大な貢献を頂き、檀信徒一同、謹んで哀悼の意を表します。その後にお声が掛かり、この度、就任させて頂きました屋代です。

就任にあたり、ご挨拶、自己紹介をさせて頂きます。安善寺とのお付き合いは、祖母が亡くなった時から始まったと聞いております。その後、間もなく祖父が亡くなり、一昨年末が亡く



当社事務所の自家消費型太陽光発電



地上設置の全量売電型の太陽光発電所

なり、昨年、祖母・祖父の五十回忌、父の一周忌の法要を執り行いました。生前父が元氣だった時に、安善寺の墓地に、焼却炉を寄贈させて頂いた記憶があります。お彼岸、お盆のお墓参りの時に、様々な屑が出ますので、それ処理するのに重宝していたと、前住職の東堂様が言われていました。思春期まで安善寺の隣に住んでいて、幼少期は遊び場でもあったので、とても身近に感じていました。

私が経営しています会社を

紹介させて頂きます。祖父が、戦後間もなく、商売を始めたと聞いております。その後、父が継ぎ、当時、国の政策は、人口も年々増えていることもあり、コメの増産に力を入れておりました。その頃、農業の資材を扱い、主に農協、農機具店さんに、卸売りをさせて頂きました。昭和40年〜50年に掛けて、機械化が進み、農機具から農業機械へと変わっていききました。機械化によって、農機具格納庫、農業作業所等、建物の需要が出てきて、昭和53年に建設業を設立しました。その後、住宅、工場、店舗等を手掛け、設計業、不動産業の免許を取得して、現在に至っています。私は、株式会社ヤシロの代表をしております。

令和2年からのコロナ禍で、特に建設部門は、住宅新築の延期、事業所の設備投資の中止、中断があり、売上に影響が出ていました。また、我が社では10年前から「売電型」太陽光発電事業に取り組み、自社所有の遊休土地に2ヶ所、新規のお客様の敷地に1ヶ所、全量売電型の地上設置の太陽光発電所を施工し、7年前に新築及びリフォームをして頂いたお客様に住宅の屋根に余剰電力売電型の太陽光発電を6件施工しました。しかし、売電単価の低下により、「売る単価」より「買う単価」の方が高くなり、電気を売る事を目的とした太陽光発電システムの販売は伸び悩んでいるのが現状でした。

一方で、世界においてカーボンニュートラルに向けて動きが加速しており、国においても脱炭素社会の方針が打ち出され、CO₂の削減に向けて、取り組み機運が企業においても高まってきました。

このような動きを機会と捉え、今後は太陽光発電システムの恩恵を最大限に享受して頂く為に、新たに創って使う「自家消費型」太陽光発電システムを事業所に提案していきたいと考えています。

自家消費電力は、再生可能エネルギー発電促進賦課金の上昇、燃料原価高騰等の電気料金

上昇に影響されません。また、ピーク時の電気使用量を減らすことにより電気代の基本料金の削減が可能です。平常時は太陽光発電で発電した電力を使用する事で節電が可能になり、災害などが発生した時には蓄電システムと組み合わせることで、BCP対策（事業継続対策）を実現します。太陽光発電を活用する事で事業停止による損害を最小限にとどめる事ができます。

地域内の法人様に向けて、長岡のような自然環境下で導入した場合の設置イメージや発電量データを実際の発電システムで見えていただくとともに、雪国で培ってきた自社の施工技術・実績をもとに、モデルケースを提案していききたいと思えます。

電気料金の高騰でお困りの社長様、環境貢献について関心のある社長様、我が社に声を掛けて頂ければ幸いです。

若輩もので、大変恐縮ですが、檀信徒総代を、皆様のご指導を頂きながら精一杯務めさせて頂きたいと思えます。何卒よろしくお願い致します。

【特集②】

『得度式を行いました』

先般二月四日、安善寺本堂において東堂老師師僧のもと、長男真人と次男悠真の得度式を挙行いたしました。得度式とは師僧より袈裟、座具、直綴、応量器をいただき、さらに大乘の戒法を受けて誓願し、僧名と血脈をいただくことで、僧侶の仲間入りをすることです。戒法には、三帰戒、三聚淨戒、十重禁戒の十六条戒があり、この戒法を受けることを受戒といいます。これにより正式に曹洞宗の僧侶として僧籍簿に登録され、「上座」の法階が得られます。曹洞宗では満一〇歳になると得度を受けることができます。春から中学生になる真人と、五年生になる悠真二人そろって古式にのっとり得度を受けることができたことは大変ありがたいことです。当日は妙喜寺様にご随喜いただき、住職の兄弟もすべて集まり皆に見守られる中、緊張

しながらも大きな声で「能くたもつ」と誓願を立て立派に勤めることができました。また、得度式では師僧の東堂老師から真人に「泰嶽」、悠真に「泰賢」という立派な「号」を授かりました。

これで将来必ず僧侶としての道を歩むと決まったわけではありません。ただ、この度、授かった戒法をしっかりを護持して、今後も仏弟子として立派に成長してくれることを願います。



「左側 悠真 右側 真人」



「師僧 東堂老師の前で誓願を立てる」



「師僧より剃髪していただき仏門に入ります」

シリーズ
旅に
行きたい!!
第6回

昨年催行の安善寺「団体参拝旅行」

旅行日誌

新潟ビーエス観光 飯泉 隆史

季節は春を迎え、また旅行業にも春がやってきました。拝観、イベントや出入国の規制等が徐々に緩和され、海外からの観光客も増え、旅行も活気を取り戻しつつあります。皆さんお出かけしましょう。

さて今回は昨年催行された安善寺様の旅行日誌をお話したいと思います。何度も延期を迎え、ようやく行われた旅行でしたので、感慨深いものがあります。しかし残念なことに、旅行を一番楽しみに

していたであろう方丈様が直前で参加できなくなり、団長不在での出発となりました。今回は安善寺様と龍穩院様と龍昌庵様での合同の旅行となり、団長は龍穩院様にお願ひしました。奈良のお宿での合流となったので、初日は津南から参加の大龍院様より一日団長をお願いしました。

さて旅行の出発日十月二十四日、二十四名様のご参加をいただき、無事に長岡を出発。北陸道を奈良方面に進み、福井県にて昼食後、瑩山禅師の御誕生寺様にて参拝、ご祈禱と三年前にお亡くなりになられました板橋禅師の法要を行いました。ちなみに先日、NHKがドキュメント72時間という番組撮影に求められ、猫寺のタイトルで放送されました。機会あればご覧になってください。御誕生寺を後に奈良へ向かいま

す。奈良平野を一望できる若草山のお宿三笠にてお泊り。久々の宴席も終始和やかに行われ、ここで龍穩院様と合流いたしました。二日目は奈良の市内観光です。午前中は東大寺、興福寺を参拝。至る所にシカが皆様を待ち受けていました。午後には薬師寺と法隆寺を参拝。どのお寺も境内が広いので、とにかく歩いたという印象でしたが、世界遺産レベルのお寺は素晴らしいものばかりです。その後、京都に移動し、お泊りは宇治川沿いにある花やしき浮舟園にて。リバービューのお部屋とお風呂を満喫し、夕食は繊細な京料理を堪能していただきました。

三日目はお宿から徒歩で平等院を訪れ、ほぼ一番乗りでお参りできました。そして黄檗宗の大本山萬福寺へ。昨年は隠元禅師の三百五十年大遠忌の年でありました。またラタン祭りが行われていて、境内に約三十の中国から運ばれてきた鮮やかなランタンが設置されていました。お昼は滋賀県へ移動し、多賀大社にて参拝と昼食をお召し上がりいただきました。入り口には強烈な角度の太鼓橋があり、

渡ると願いが叶うとのこと。皆様挑戦して無事に渡り切りました。食後は一路長岡へと戻ってまいりました。

三日間を通して青空が広がる、とても天候に恵まれた旅行でした。参加された方のご協力もあって、何事もなく無事に帰ってくることができました。ご参加された方には改めて感謝申し上げます。

そして今年も団体参拝旅行を計画致しました。期日は六月十九日(月)から二泊三日。今回のメインは静岡県にある曹洞宗三大祈禱寺のひとつの可睡斎です。宿坊にて一晚お過ごし頂き、早朝朝課とご祈禱を受けます。次の日は伊勢湾をフェリーで渡り、伊勢神宮を参拝し、お泊りは鳥羽温泉へ。最終日は三重県津市の四天王寺様を参拝するコースとなっています。この度も充実した内容となっておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

■旅のご相談・お申し込みは
新潟ビーエス観光まで

TEL 0258-34-4848



団体参拝旅行 思い出の写真の数々

今年は、私も喜寿を迎え数え七十七歳です。

現在、満年齢を使う事が多いようですが、日本の伝統文化で歳祝いには数え歳で祝われてきました。数え六十一歳を

還暦・七十歳を古希・七十七歳を喜寿・八十歳を傘寿・八十八歳を米寿・九十歳を卒寿・九十九歳の白寿等、総称として賀寿、または年祝いと呼ばれています。日本は世界有数の長寿国であり、昨今は百歳を超えても元気でいらつしやる方々も大勢おられます。百歳は「百寿・紀寿」また、九十五歳を珍寿・百十歳・百十二歳以上を大変珍しいとの意味からやはり「珍寿」として年祝いする場合もあるそうです。祝いの名前もいろいろあり、調べてみると面白いものです。

昨年十二月の最強寒波による大雪で、新潟県各地で長時間に及ぶ車の立ち往生や停電

等による、被害が生じ、新聞やテレビ等で大きく報道されました。安善寺でも、雪が重かったため、境内のしだれ桜、椿・銀杏・檜の木等々の木々の太い枝が折れました。

私の記憶の中でもこれほど多くの木々の被害は初めてです。この先どれほどの豪雪になるものかと心配しましたが、二月上旬の大雪後は、雨の日や春を思わせるような晴天の日々も多く、みるみる雪も溶け出し庭の木々の下には土も見えはじめ、雪国長岡にも春が近づいたと、肌で感じられるようになりました。

子供の頃、土が見え始めると『春よこい、はーやくこい、歩き始めたミイちゃんが…』と、口ずさみ不思議と心がうきうきしたものです。今は、さすがに歌はうたいませんが、何となく明るい気持ちになり前向きに、何かは分らないが、「ヤルゾ！」つとい



春を告げる、境内の小鳥の囀り（さえずり）

う気分きぶんに。小鳥も訪れる春に
向けて、気持ちも高ぶるの
か？ 嚙かみりも元氣があるように
聞こえます。

春に向かつて益々精進し、
来年の金婚式を目指し、夫婦
共々、日々元氣で明るく過すご
したいと願うものです。

『寺行事予定』

三月十五日 涅槃会

十八日 彼岸入り

二十一日 彼岸中日

二十四日 彼岸明け

五月五日 花まつり

六月十二日 大般若法要

＊寺行事の法要はその都度

ご案内いたします。

*仏教会主催花まつりは大手通りで開催予定です。

『坐禅会・写经会』

四月から坐禅会と写経会を再開いたします。

詳しい日程はホームページをご覧ください。

初参加の方は事前にお寺にご連絡ください。

【前回号訂正】

一〇〇号 四頁「安善一滴水」
(七言絶句)

〔誤〕下平一先韻

〔正〕上平十五刪韻、下平一先韻、通韻

～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！



* 詳細はお寺にお尋ねください *

主催：長岡市仏教会青年部

協力：新潟県フードバンク連絡協議

すいりよく こみち
『翠緑の小径』



お盆に
樹木葬墓地で
無住墓

どなたでも
お申込み
いただけます
贈家になる必要
ありません

後継者が
いなくても安心
(永代供養墓)

最大3名まで
個別にお礼の
します

寺院の敷地内
だからずっと安心
永代のやすらぎを
お感じします。

【お問合せ】 株式会社 放光
フリー
ダイヤル **0120-811-112**

安善寺 樹木葬墓地のご案内ページ

<https://anzenji-jyumokusou.com/>





「アンとビビ」

皆さん初めまして、アンとビビです。猫好きな住職が犬好きの久美さんとのバトルを制し、私たちを安善寺に迎えてくれました。部屋に入つて、まずは先輩猫であるボブさんの写真に一礼。こちらをまっすぐ見つめる様はまるで「いい子にするんだぞ!」といわんばかり。でも私たちはまだまだ子猫。いい子になってし

かけっこ、机のうえをスライディング、ティッシュを引っ張り出してビリビリに。あー楽しい!特に妹ビビのお気に入りには真人君と悠真君の文房具。消しゴムやら鉛筆やらをくわえて持つて行ってしまうから、久美さんがあちこち探して拾い集めている。こんな私たちを怒らずむぎゅうっと抱きしめてくれる姿を見ると、本当に犬派なのかしらと疑い



はじめまして、アンとビビです。 ドキドキわくわくの毎日です。



たくなってしまう。犬といえば先輩であるモモさん。以前は階段を上がつてきて顔を覗かしていたそうだけど、私たちの存在に気づいていないのかその姿を一度も見せてくれない。声だけを聞いてみると会うのはちよつと怖い気もするけれど、仲良くなれたらいいなあ、と期待して時々階段の上からちらちらのぞいています。

ドキドキわくわくしながら初めての冬を過ごして数ヶ月。庭を見るといつの間にか雪は溶け、木の枝に春の訪れを感じられます。この先も安善寺で四季を感じながら過ごせることをうれしく思います。さあ、これからいろんなことがおこりそうな予感がします!先代の「ボブのひとりごと」に代わり、私たちがバタバタにゃんにゃん日記をお伝えしていきます。楽しみにしてください!ニャーん!

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります

編集 雑感

立春も過ぎ雪から雨も多くなってきました。安善寺のお庭の雪もだんだんと小さくなり長岡にも春が近づいていることを日々感じています。昨年末の大雪で今年の雪はどうなるのかと心配をしていましたが年が明けてからは雪下ろしもせずにすんでほつとしております。そんな中、国から新型コロナウイルスの扱いを5月から感染症法上の5類扱いに変更すると発表がありました。今後のコロナウイルスについて個人的な感想を述べたいと思います。

令和3年の第93号季刊誌にも当時の病院でのコロナ対応について寄稿させていただきました。令和

3年は新潟県内のコロナ患者さんはまだ少なかったですが、令和4年に入り患者数が増加して私のクリニックでも多くのコロナ患者さんの対応に追われました。成人の抗コロナウイルス薬はありましたがまだ子どもに出せる薬は無く(12歳以上には薬が現在はありません)、話していて看病に当たることが家族の心配も大きかったです。

現在の流行株でもワクチン未接種の人が感染すれば重症化して死亡することもある怖い感染症です。5類扱いに変更するにあたりコロナ禍での3年間で多くの人にワクチンを打つ時間がとれたことは一つの安心材料だと思います。特に新潟県は全国でも接種率の高い地域です(65歳以上のオミクロン株接種率…全国73.8%新潟県80.4% 2023年2月15日更新新潟県HPより)。経済活動などを戻すと感染のリスクは上がるため医療者としては引き続きワクチン接種をお勧めします。5月になつてもコロナウイルスは気を利かせて弱毒化するなど人間の都合で変わってはいけません。今後ワクチン接種を続けて抗体を多くの人々が持つて、重症化リスクを下げたうえで人との交流を戻していけたらと願っています。お酒を飲みながらのお花見も今年はできるといいですね。

(太田 匡哉)